

2022年 3月期 決算説明会

2022年5月25日
八千代工業株式会社

■ 決算説明

経理部長

初山 武志

■ 事業の方向性

代表取締役社長

加藤 憲嗣

■ 決算説明

経理部長

初山 武志

■ 事業の方向性

代表取締役社長

加藤 憲嗣

- 2022年3月期 連結決算
- 2023年3月期 連結業績見通し

■ 2022年3月期 連結決算

■ 2023年3月期 連結業績見通し

2022年3月期（12ヶ月間）連結業績（IFRS）

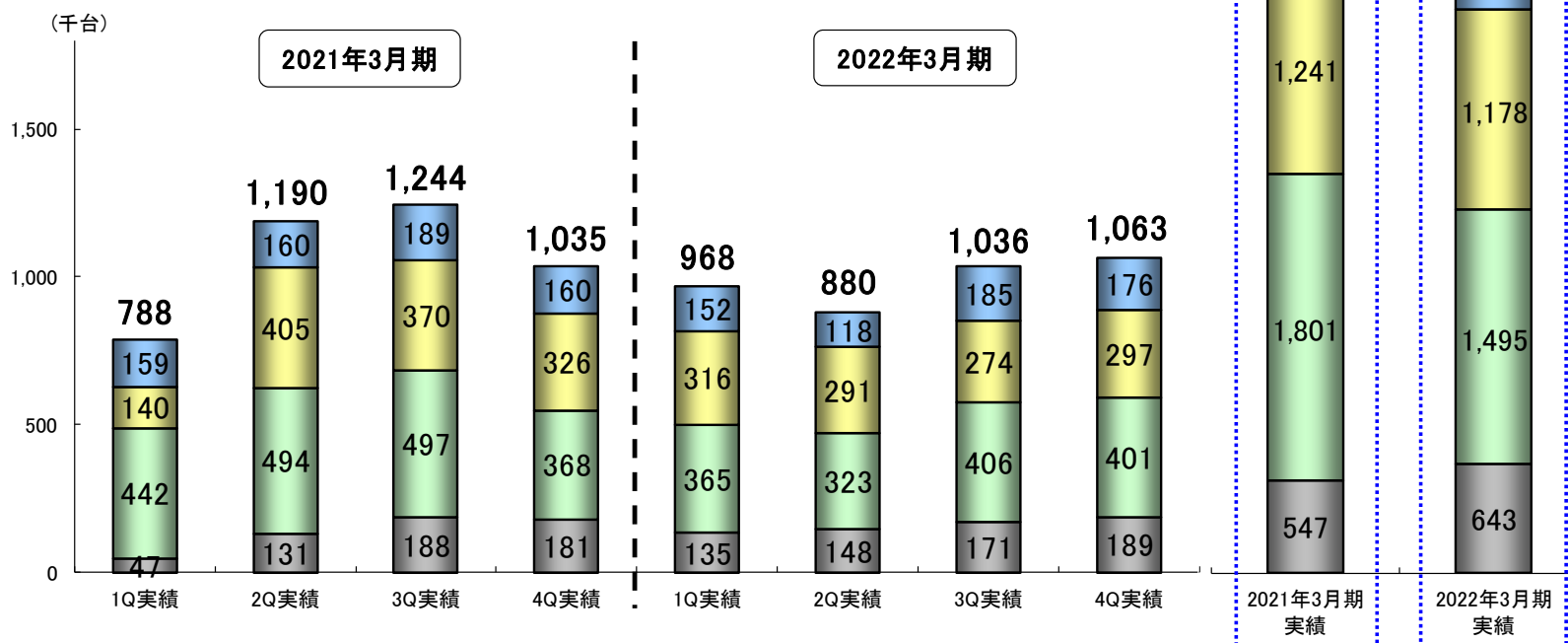
	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	前期比 (増減率)
売上収益	1,572億円	1,642億円	+70億円 (+4.5%)
営業利益 (対売上収益比率)	56.3億円 (3.6%)	105.2億円 (6.4%)	+48.9億円 (+86.9%)
税引前利益 (対売上収益比率)	61.1億円 (3.9%)	119.1億円 (7.2%)	+58.0億円 (+94.9%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	6.7億円 (0.4%)	51.5億円 (3.1%)	+44.9億円 (+674.2%)
為替レート (USドル)	106円	112円	6円 円安

2022年3月期（12ヶ月間）燃料タンク概況

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	前期比 (増減率)
出荷台数合計	4,257千台	3,947千台	-310千台 (-7.3%)
日本	668千台	631千台	-37千台 (-5.7%)
米州	1,241千台	1,178千台	-63千台 (-5.0%)
中国	1,801千台	1,495千台	-306千台 (-17.0%)
アジア	547千台	643千台	+96千台 (+17.5%)
売上収益	443億円	442億円	-1億円 (-0.2%)
内、為替影響	-	+34億円	-35億円 (-7.9%)

← 実質的な売上減

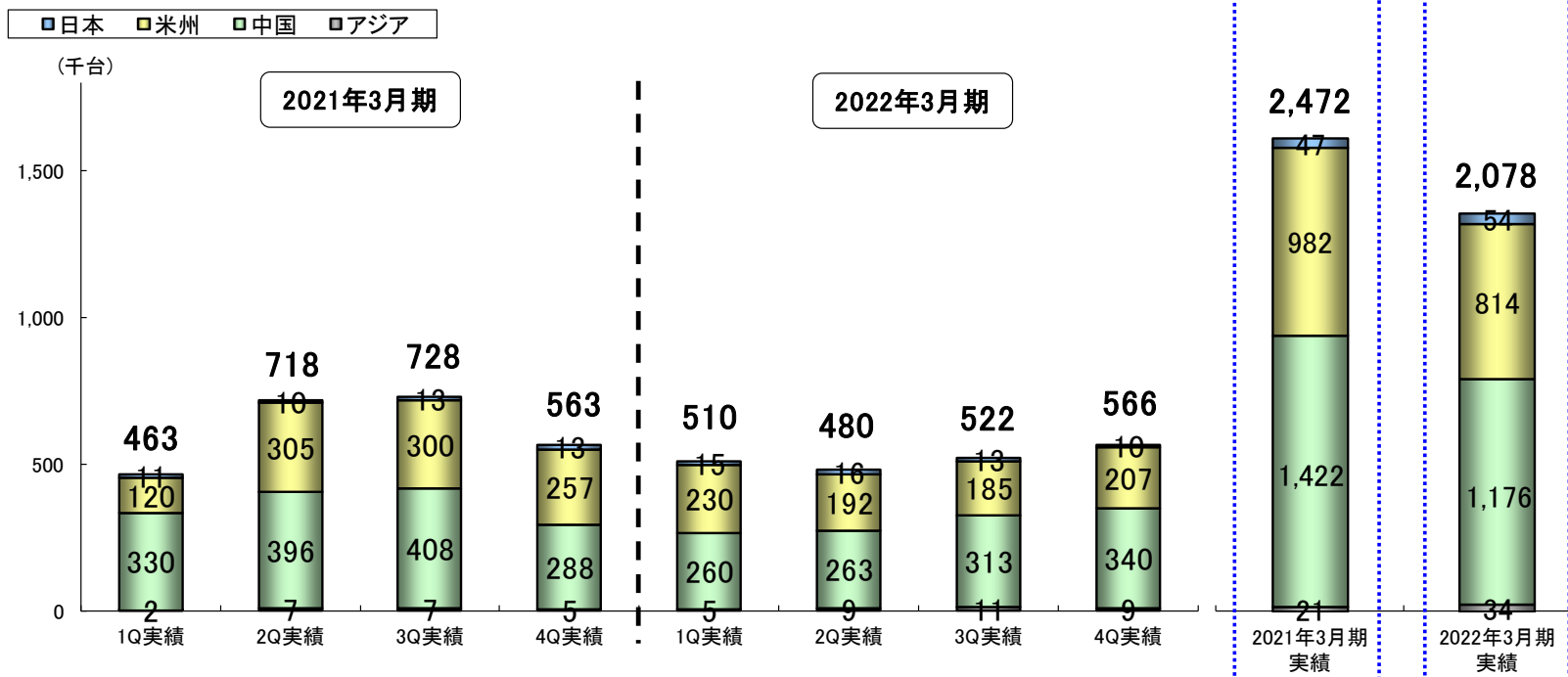
■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



2022年3月期（12ヶ月間） サンプル概況

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	前期比 (増減率)
出荷台数合計	2,472千台	2,078千台	-394千台 (-16.0%)
日本	47千台	54千台	+7千台 (+12.4%)
米州	982千台	814千台	-168千台 (-17.3%)
中国	1,422千台	1,176千台	-246千台 (-17.3%)
アジア	21千台	34千台	+13千台 (+65.4%)
売上収益	506億円	471億円	-35億円 (-6.9%)
内、為替影響	-	+42億円	-77億円 (-15.2%)

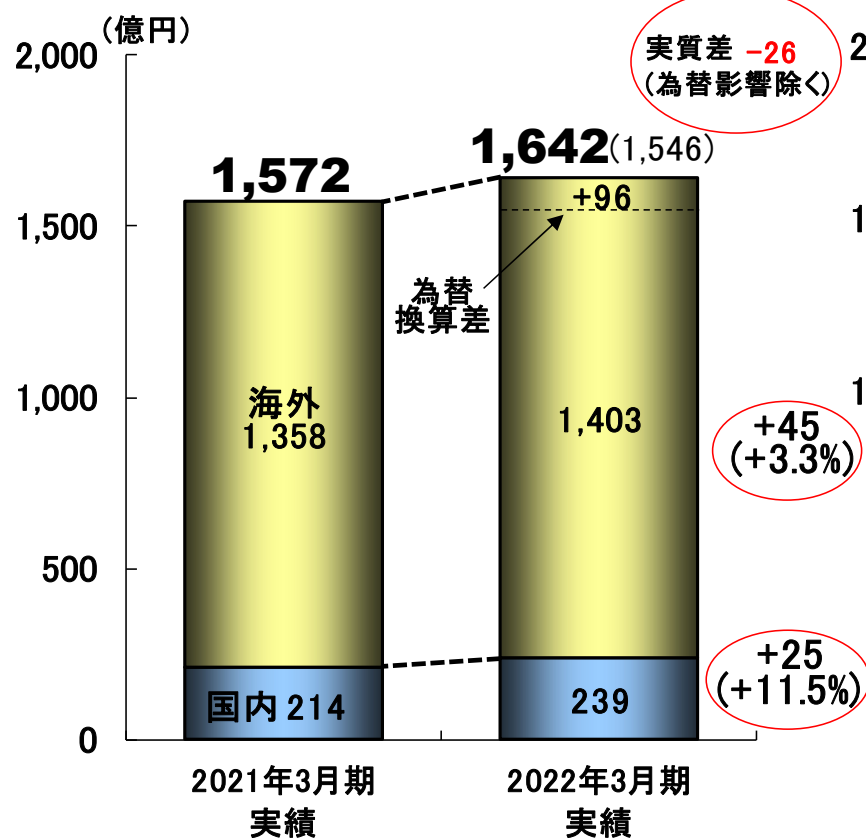
← 実質的な売上減



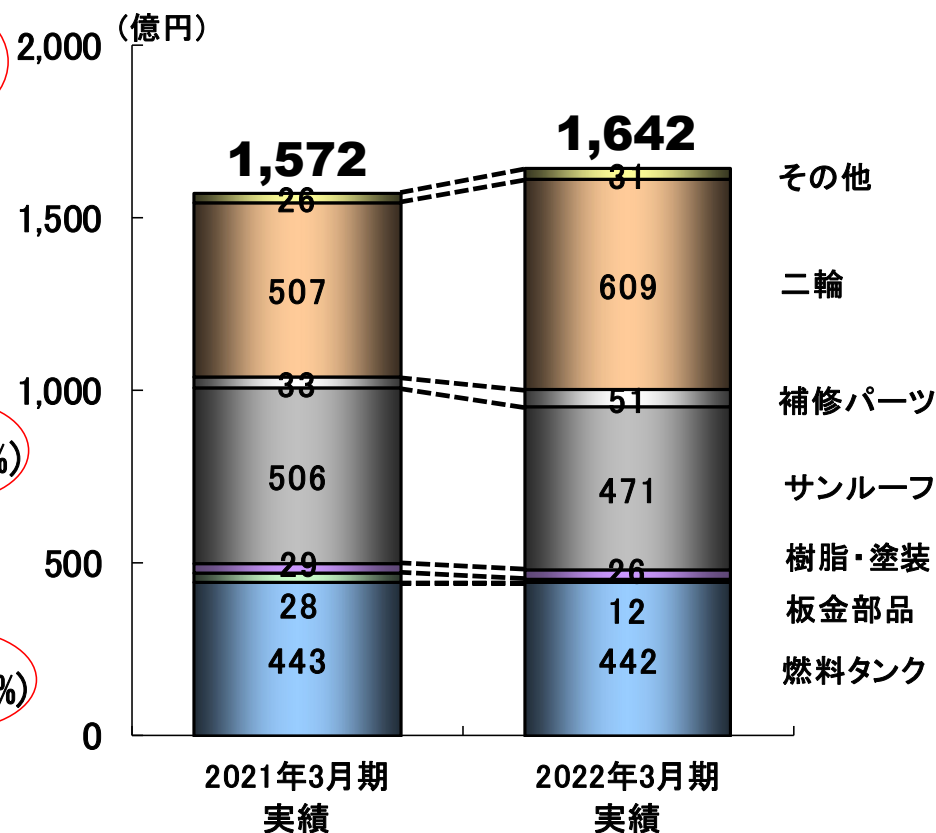
2022年3月期（12ヶ月間）製品別売上概況

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	前期比 (増減率)
売上収益	1,572億円	1,642億円	+70億円 (+4.5%)

国内／海外区分



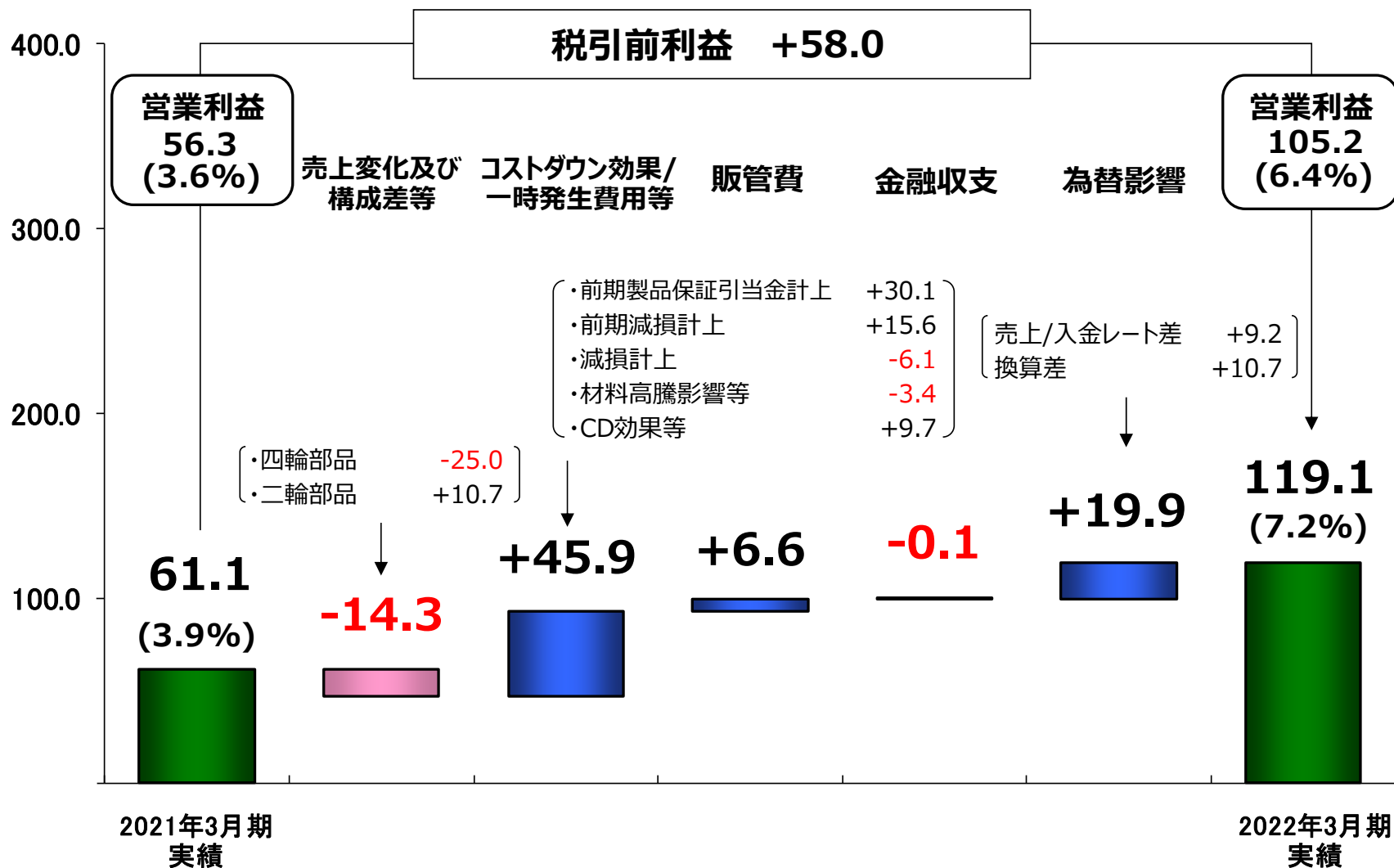
製品別区分



2022年3月期（12ヶ月間）連結税引前利益増減要因

(単位：億円)

売上収益	1,572	増減	-26	・四輪部品 -106 ・二輪部品 +30 ・材料高騰影響 +50	為替換算影響	+96	1,642
------	-------	----	-----	--	--------	-----	-------



2022年3月期（12ヶ月間）所在地別セグメント情報

【日本】

売上収益	+25
・四輪部品売上増	+10
・二輪部品売上増	+15
税引前当期利益	+34.0
・売上変化及び機種構成差	+10.8
・前期減損計上	+12.9
・減損計上	-6.1
・CD効果等	+1.5
・販管費増減	+13.4
・金融収支	+0.3
・為替影響	+1.2

【米州】

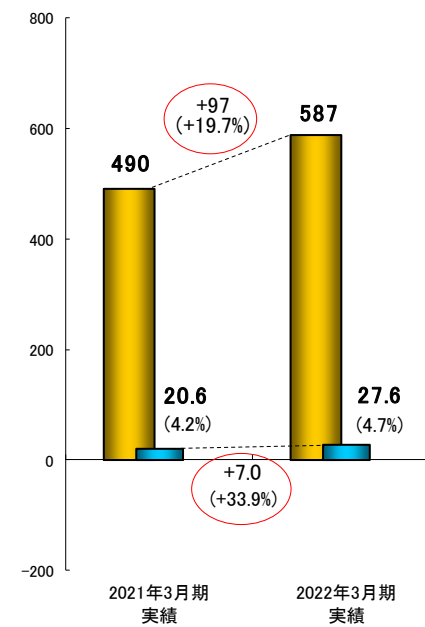
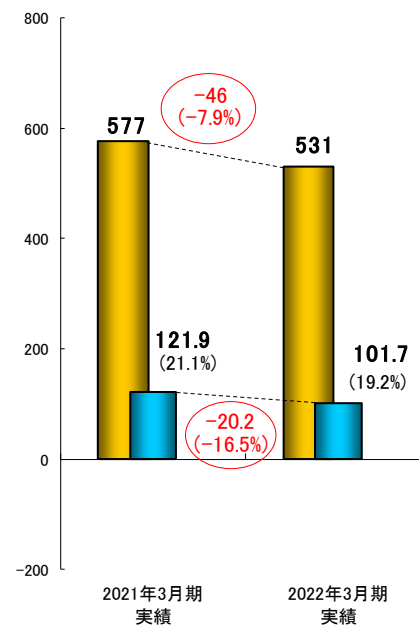
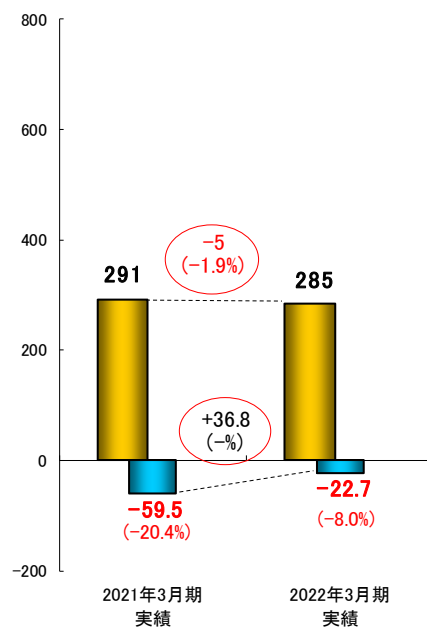
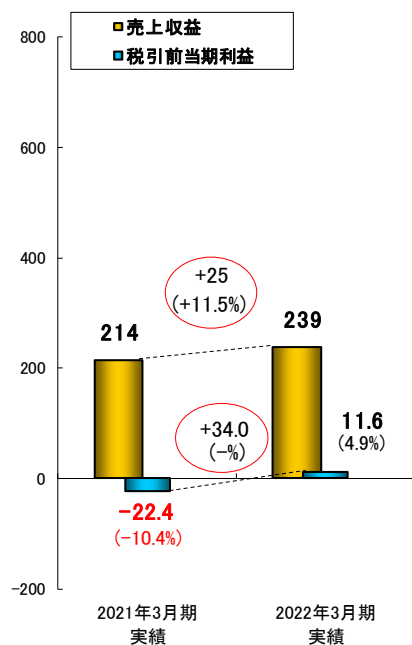
売上収益	-5
・四輪部品売上減	-22
・為替影響	+17
税引前当期利益	+36.8
・売上変化及び機種構成差	-4.7
・前期製品保証引当金計上	+30.1
・前期減損計上	+2.7
・CD効果等	+6.4
・材料高騰影響等	-1.5
・販管費増減	-2.0
・金融収支	-0.5
・為替影響	+6.3

【中国】

売上収益	-46
・四輪部品売上減	-105
・為替影響	+59
税引前当期利益	-20.2
・売上変化及び機種構成差	-28.3
・CD効果等	+1.7
・販管費増減	-5.2
・金融収支	+0.5
・為替影響	+11.1

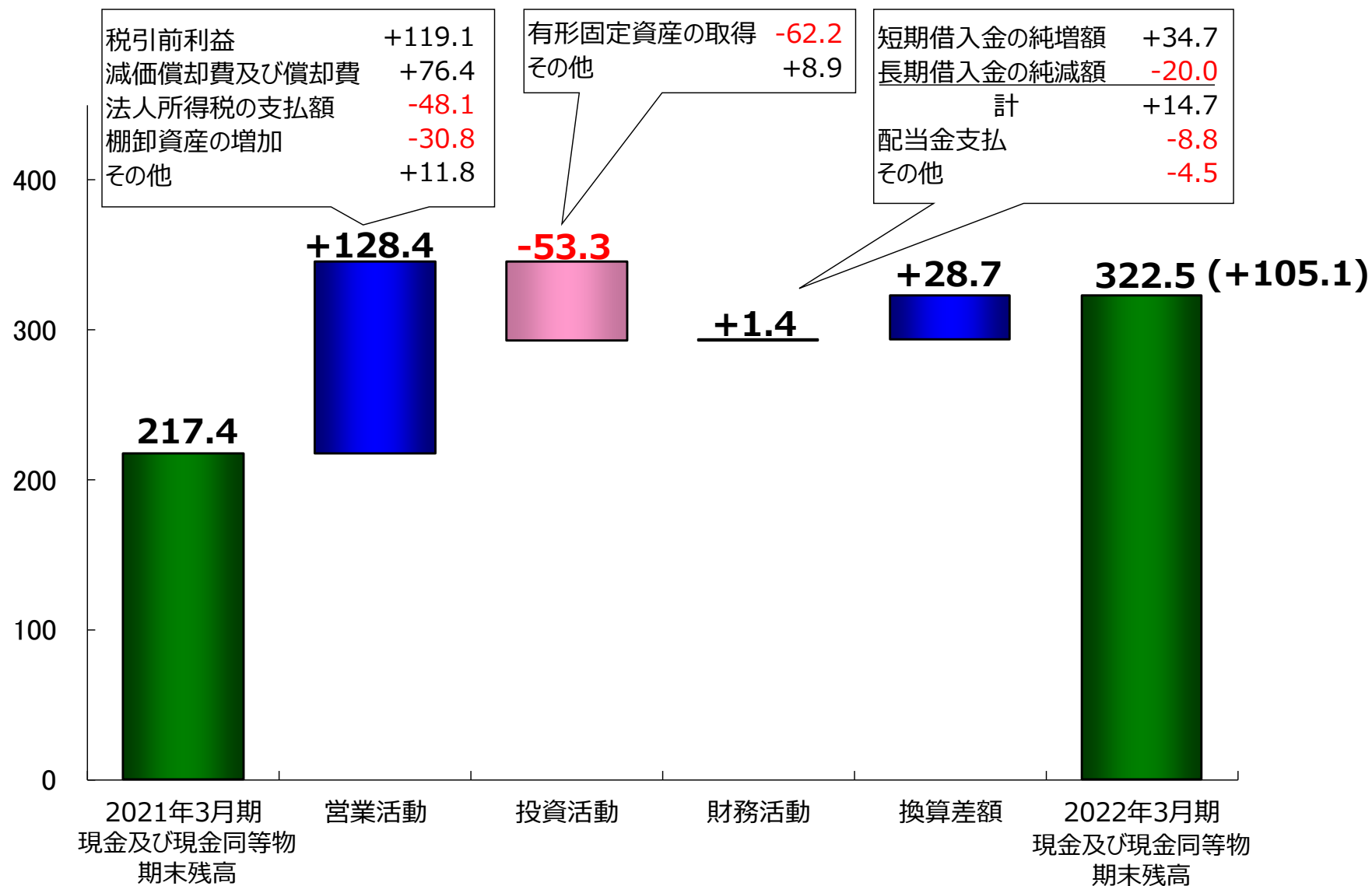
【アジア】（単位：億円）

売上収益	+97
・四輪部品売上増	+11
・二輪部品売上増	+15
・材料高騰影響	+50
・為替影響	+21
税引前当期利益	+7.0
・売上変化及び機種構成差	+7.9
・CD効果等	+0.1
・材料高騰影響等	-1.9
・金融収支	-0.4
・為替影響	+1.3



2022年3月期 連結キャッシュ・フロー

(単位：億円)

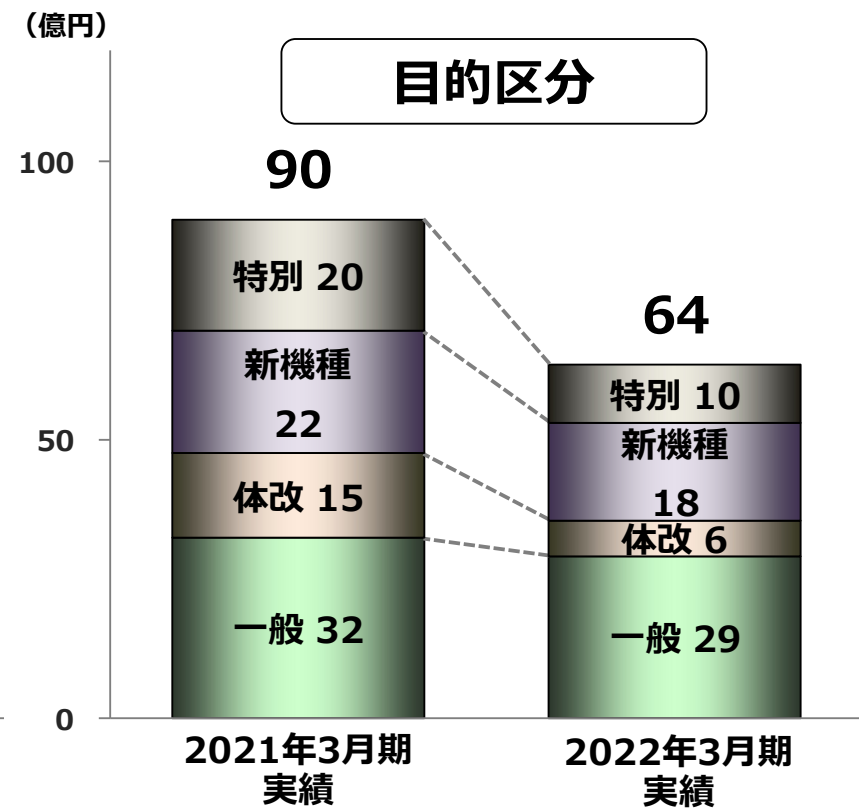
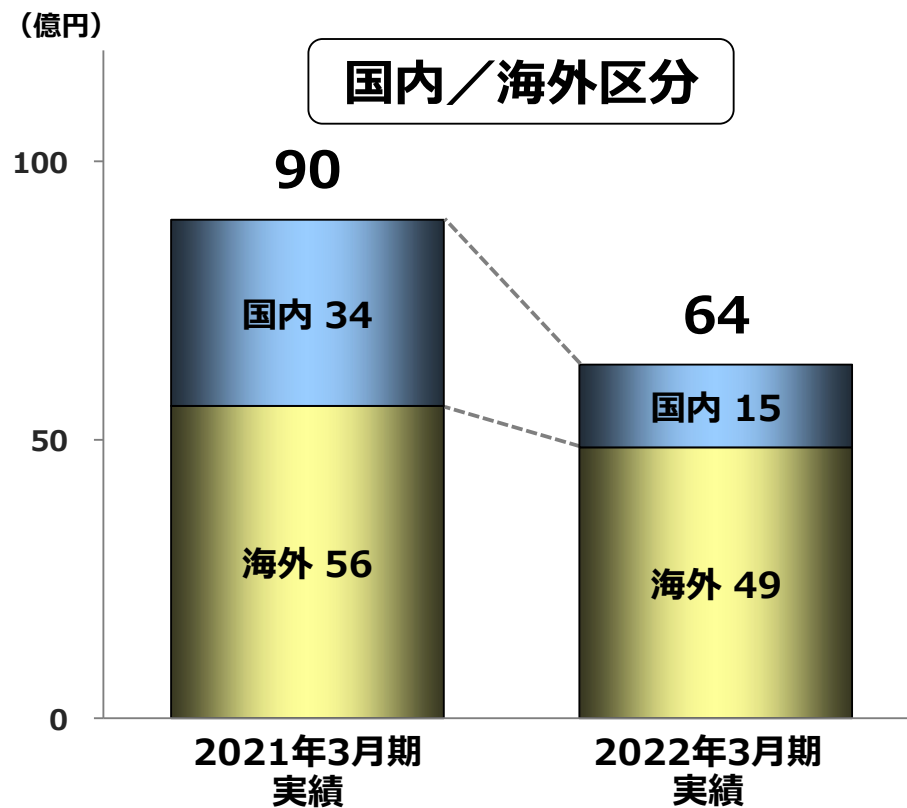


2022年3月期 連結財政状態計算書

	2021年3月期	2022年3月期	増減	コメント
資産合計	1,264億円	1,433億円	+168億円	現金及び現金同等物 +105億円 棚卸資産 +43億円 営業債権及びその他の債権 +24億円 その他の金融資産 -27億円
負債合計	614億円	669億円	+54億円	その他の金融負債 +23億円 営業債務及びその他の債務 +19億円 引当金 -18億円
親会社持分	527億円	626億円	+99億円	包括利益 +102億円 配当金支払 -3億円
非支配持分	124億円	138億円	+15億円	包括利益 +20億円 配当金支払 -5億円
資本合計	650億円	764億円	+114億円	—————
負債及び資本合計	1,264億円	1,433億円	+168億円	—————
有利子負債残高	162億円	179億円	+17億円	日本 +3億円 米州 +13億円
親会社所有者帰属持分比率	41.6%	43.7%	+2.0pt	—————
有利子負債依存度	12.8%	12.5%	-0.3pt	—————
1株当たり親会社所有者帰属持分	2,200円	2,614円	+414円	—————

2022年3月期 連結設備投資 実績

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	前期比 (増減率)
設備投資	90億円	64億円	-26億円 (-29.1%)



■ 2022年3月期 連結決算

■ 2023年3月期 連結業績見通し

2023年3月期 連結業績見通し

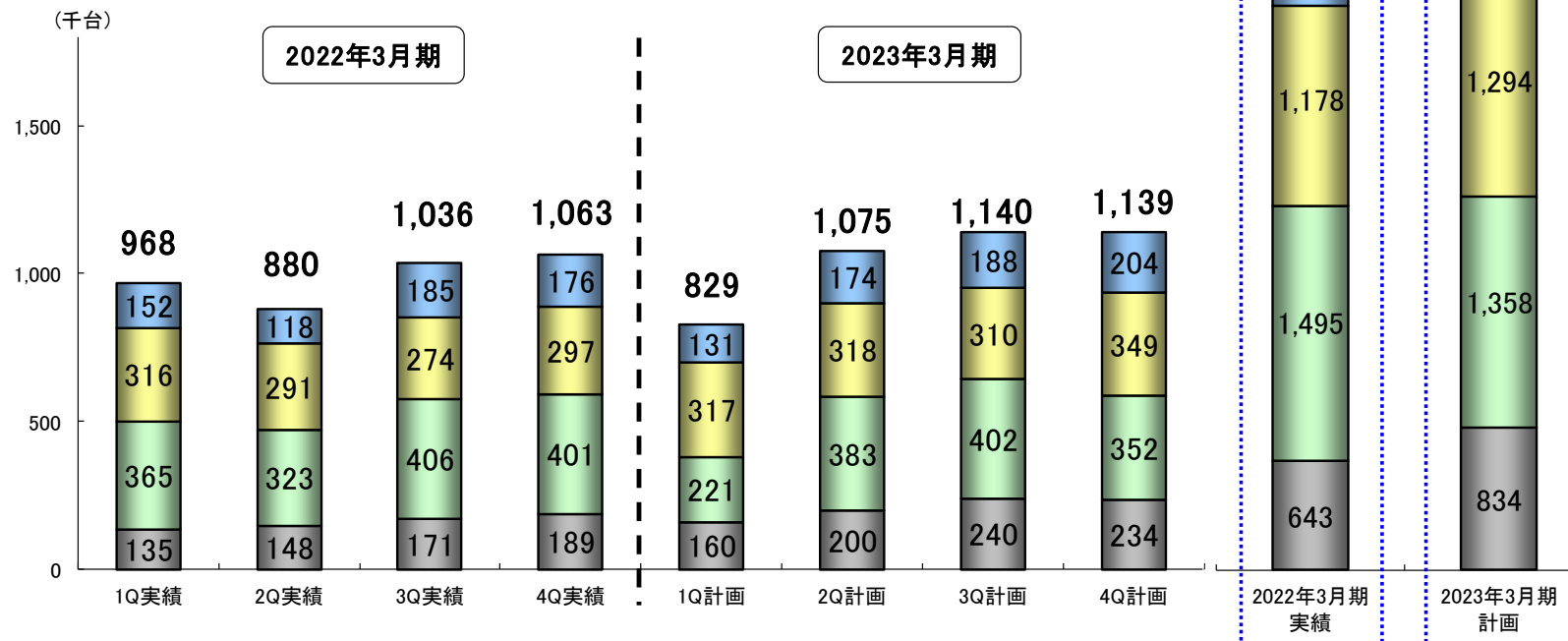
連結	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	前期比 (増減率)
売上収益	1,642億円	1,650億円	8億円 (0.5%)
営業利益 (対売上収益比率)	105.2億円 (6.4%)	80.0億円 (4.8%)	-25.2億円 (-23.9%)
税引前利益 (対売上収益比率)	119.1億円 (7.2%)	80.0億円 (4.8%)	-39.1億円 (-32.8%)
当期利益 (対売上収益比率)	64.1億円 (3.9%)	35.0億円 (2.1%)	-29.1億円 (-45.4%)
親会社の所有者に 帰属する当期利益 (対売上収益比率)	51.5億円 (3.1%)	23.0億円 (1.4%)	-28.5億円 (-55.4%)
為替レート (USドル)	112円	115円	3円 円安

2023年3月期 燃料タンク 売上台数&売上収益 見通し

	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	前年度比 (増減率)
出荷台数合計	3,947千台	4,183千台	+236千台 (+6.0%)
日本	631千台	697千台	+66千台 (+10.5%)
米州	1,178千台	1,294千台	+116千台 (+9.8%)
中国	1,495千台	1,358千台	-137千台 (-9.2%)
アジア	643千台	834千台	+191千台 (+29.8%)
売上収益	442億円	431億円	-11億円 (-2.4%)
内、為替影響	-	+6億円	-17億円 (-3.8%)

← 実質的な売上減

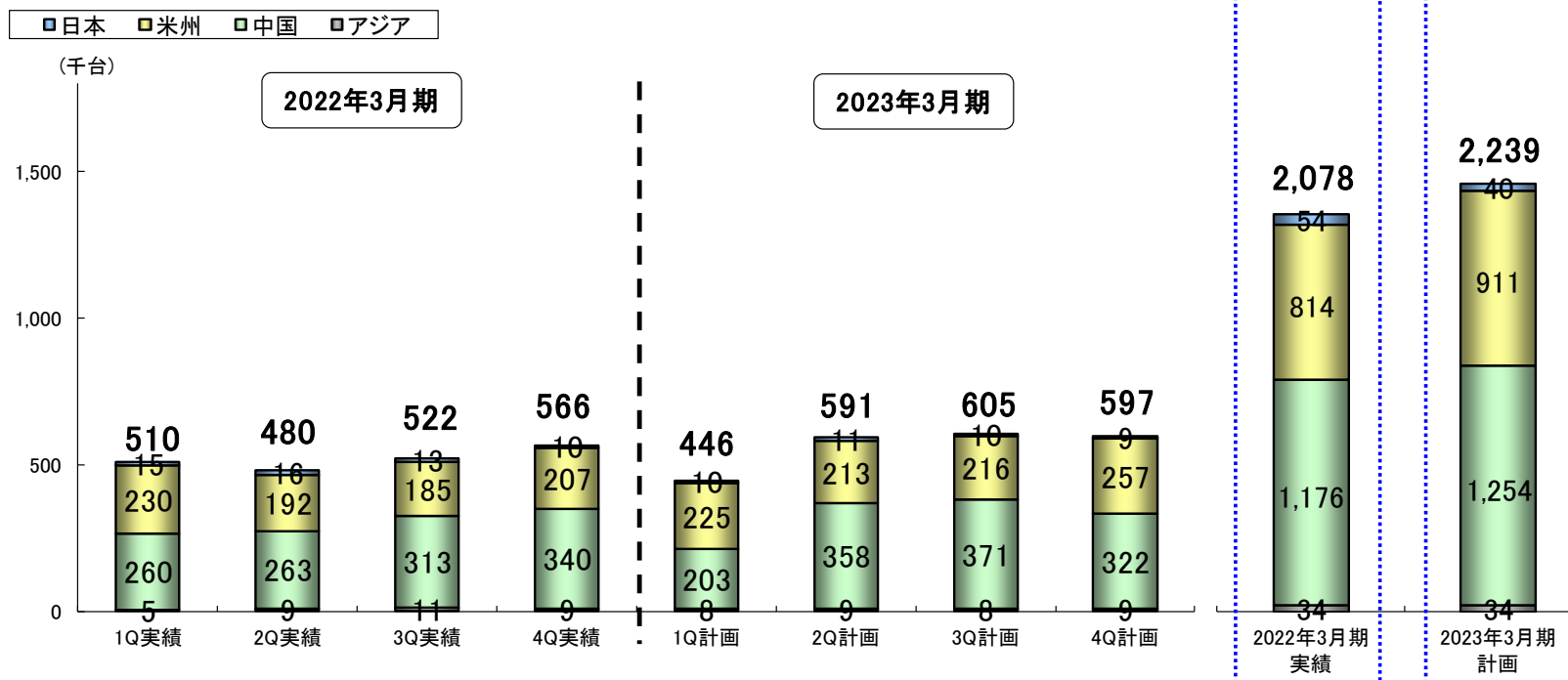
■日本 ■米州 ■中国 ■アジア



2023年3月期 サンルーフ 売上台数&売上収益 見通し

	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	前年度比 (増減率)
出荷台数合計	2,078千台	2,239千台	+161千台 (+7.8%)
日本	54千台	40千台	-14千台 (-24.0%)
米州	814千台	911千台	+97千台 (+12.0%)
中国	1,176千台	1,254千台	+78千台 (+6.6%)
アジア	34千台	34千台	-0千台 (-1.9%)
売上収益	471億円	490億円	+19億円 (+4.0%)
内、為替影響	-	+3億円	+16億円 (+3.4%)

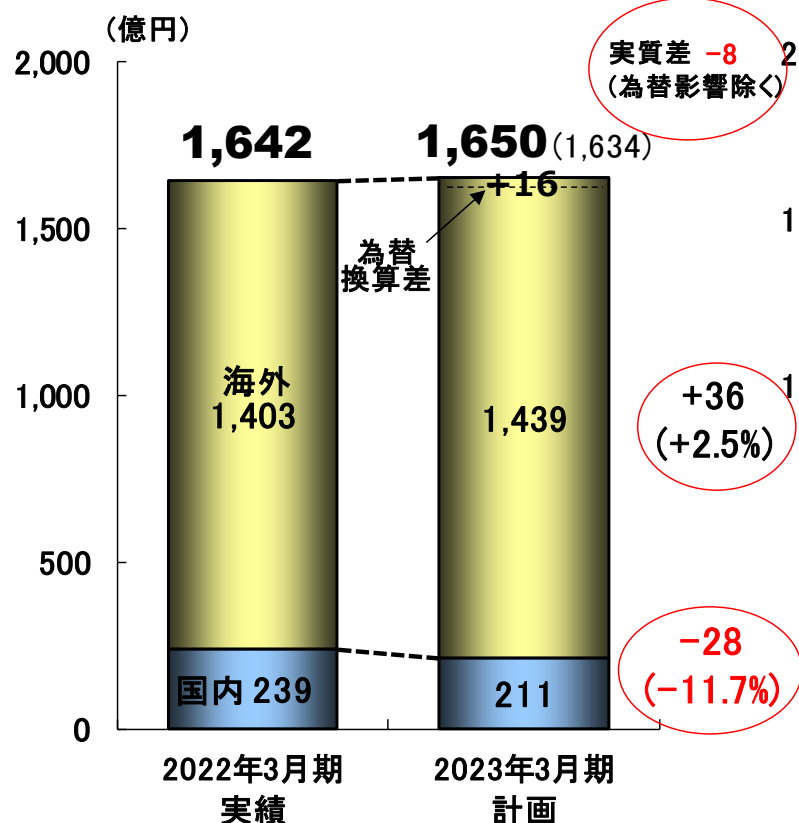
← 実質的な売上増



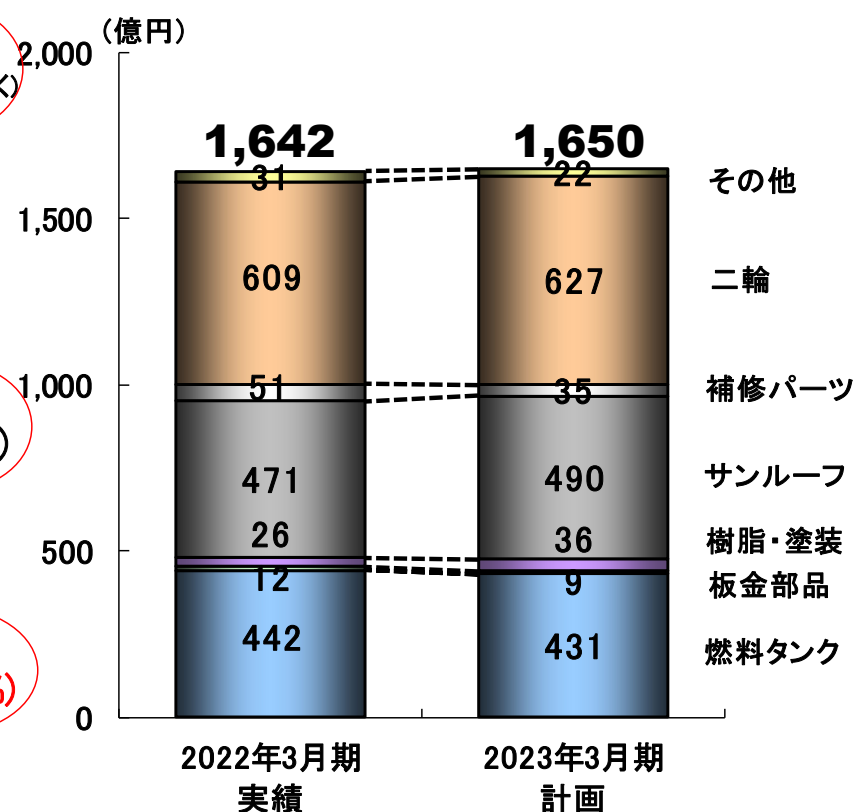
2023年3月期 製品別売上見通し

	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	前年度比 (増減率)
売上収益	1,642億円	1,650億円	+8億円 (+0.5%)

国内／海外区分



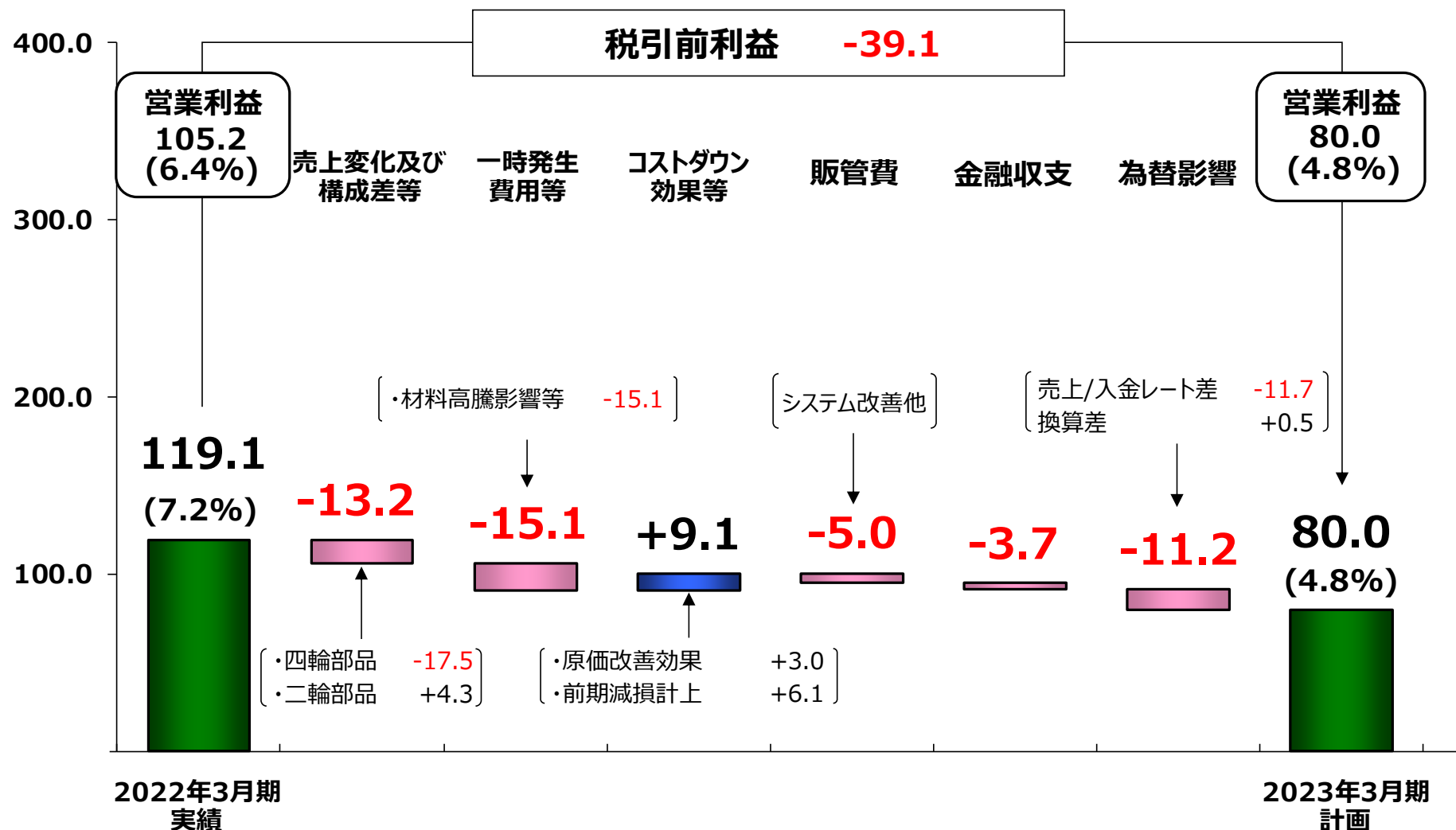
製品別区分



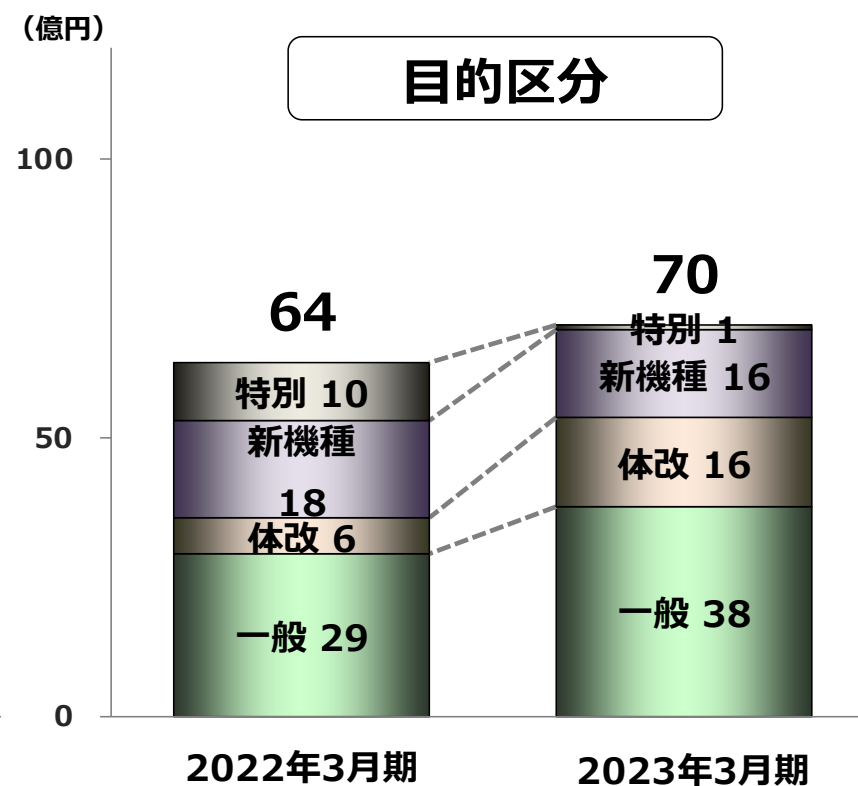
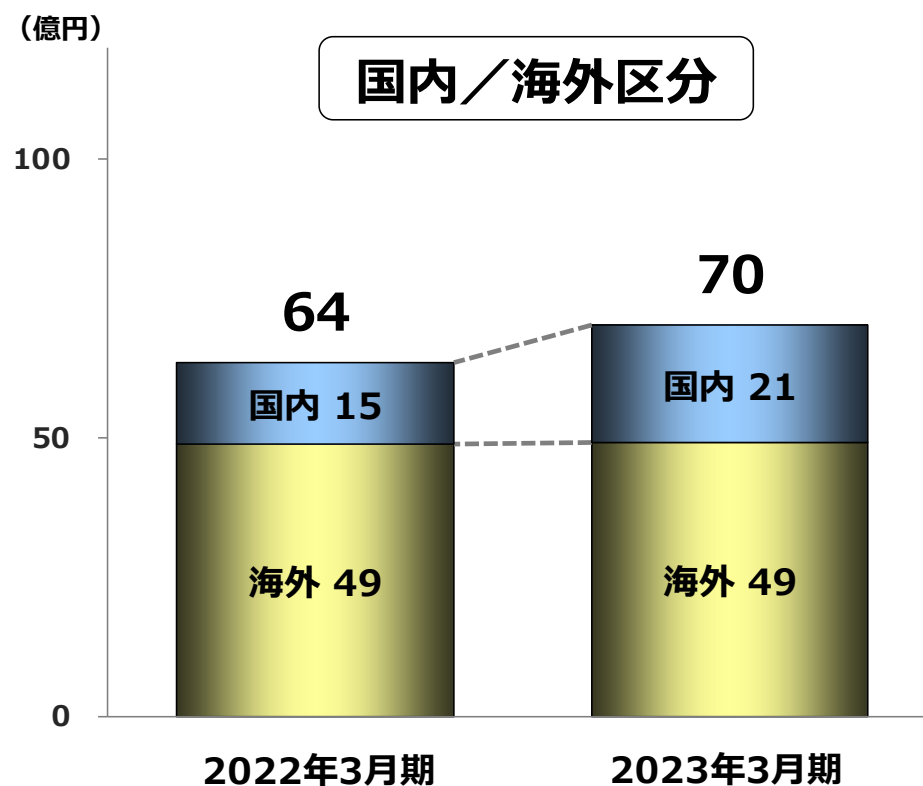
2023年3月期 連結税引前利益増減要因 前年度比

(単位：億円)

売上収益 1,642 ^{増減} **-8** ^{為替換算影響} **+16** 1,650



	2022年3月期 実績	2023年3月期 計画	前期比 (増減率)
設備投資	64億円	70億円	+6億円 (+10.6%)



【配当に関する基本方針】

当社の資本政策につきましては、長期的な企業価値の向上を図るため、持続的な事業の成長に向けた設備及び研究開発を含む戦略的な投資を可能とする強固な財務基盤を確保すること、株主の皆様へ安定的な利益還元を実施することを基本としております。

	2021年3月期	2022年3月期 (予定)	2023年3月期 (予定)	前年度比 (増減)
中間配当金	0円	6円	(9円)	+3円
期末配当金	8円	(12円)	(9円)	-3円
年間配当金	8円	(18円)	(18円)	0円
連結配当性向	28.8%	8.4%	18.7%	10.3%

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下のものがあります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害

■ 決算説明

経理部長

初山 武志

■ 事業の方向性

代表取締役社長

加藤 憲嗣

第14次中期における取り組み

第14次中期（20-22中期）

さらなる成長の基盤づくり
基盤の確保 健全化 風土改革

Vision 2030

ものづくりの^{たゆ}弛まぬ進化で
モビリティのキーカンパニーになる

■ 第14次中期				■ 第15次中期	
重点施策	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
競争力強化・ものづくり進化	生産体質改革 ハード施策：グローバル高位平準化 ソフト施策：徹底した原価改善 日本、米州事業の健全化加速 品質体質強化 ：開発領域・量産領域、体質領域 企業風土改革 『一致団結』、『自ら挑戦し、進化する集団』への変革 環境負荷低減活動 社会貢献活動 カarbonニュートラル			事業体質の盤石化	
事業基盤の盤石化					
品質保証体質の強化					
人と組織の活性化・人材強化					
企業価値向上に向けたサステナビリティ展開					

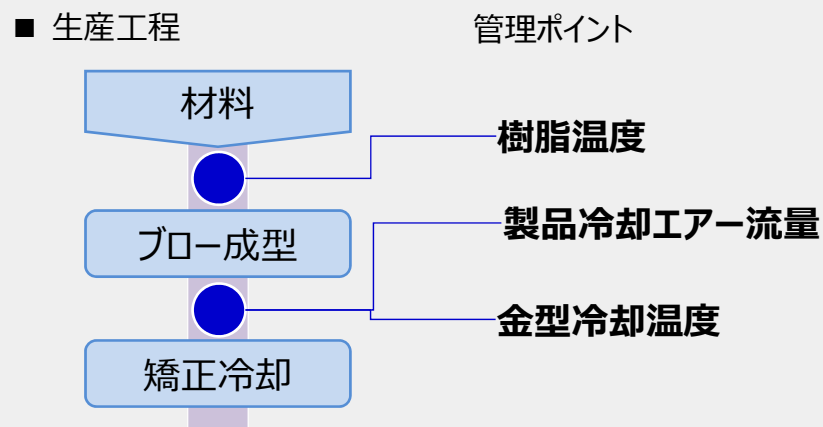
第14次中期における取り組み

競争力強化・ものづくり進化



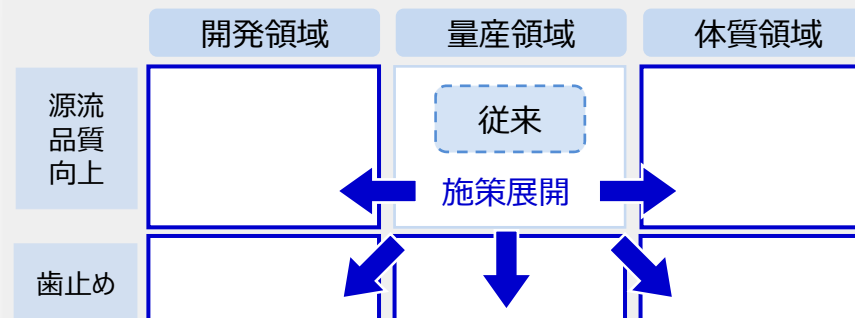
CAEの活用により作業工数と開発期間を短縮

事業基盤の盤石化



安定した品質で生産できる製造技術を確立

品質保証体制の強化



各領域の歯止めを加えた、全方位施策を展開

人と組織の活性化・人材強化

スローガン

『一致団結への変革』、『自ら挑戦し、進化する集団への変革』

企業価値向上に向けたサステナビリティ展開

太陽光発電パネル設置



地元小学校へ学習用品の寄贈



環境活動や社会貢献活動に積極的に取り組む

直近の課題

新型コロナウイルス



半導体の供給量



カーボンニュートラルに向けた課題

電動化



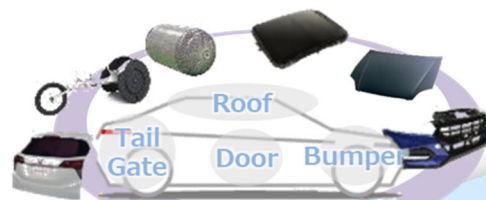
工場のCO2削減



当社グループが目指す目標

社会からその存在を認められ、
期待される企業を目指す

= モジュール製品で
モビリティのキーカンパニーになる



新たな競争力

市場・業界動向を先読みした技術
・資源循環サイクル製造プロセス

将来事業
樹脂モジュール
大黒柱

既存事業

燃料タンク
サンルーフ
樹脂・塗装
補修板金

当社ならではの
強み

樹脂成形 ノウハウ
モジュール 開発力

成形・塗装・組立

設計・試験・解析

他社販売 (SR)

将来への
原資

第三の柱

収益基盤の
盤石化

根底にある競争力の源泉

企業価値を支える
人間力

常に進化し続ける
ものづくり力

柔軟に対応できる
現場力

将来

サンルーフ 主力製品の技術と展開

地域別主力製品の展開

アジア 適用拡大地域



スタンダードサンルーフ

ニーズ拡大に合わせ
競争力向上

中国 新興OEM拡大地域



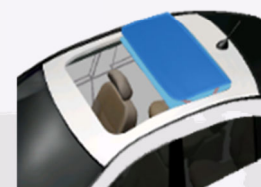
スタンダードサンルーフ



パノラマサンルーフ

ロールサンシェード
新規受注 済

北米 成熟地域



パノラマサンルーフ



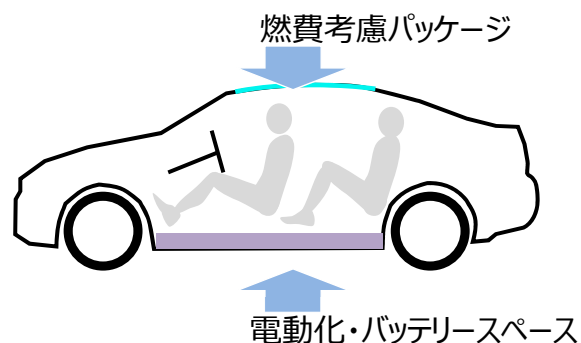
リアスライドウインドウ

リアスライド
ウインドウの
技術開発完了

今後販路拡大に
つなげたい

ガラスTOP 薄型ロールサンシェードモジュール

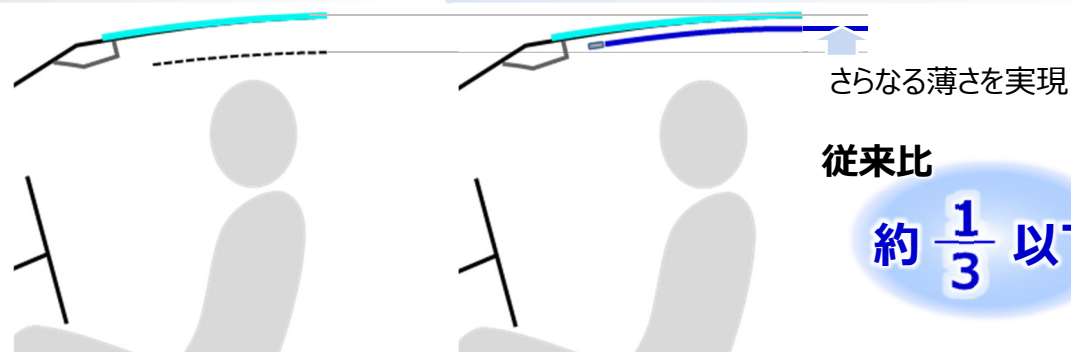
【電動車両予測】



バリエーション

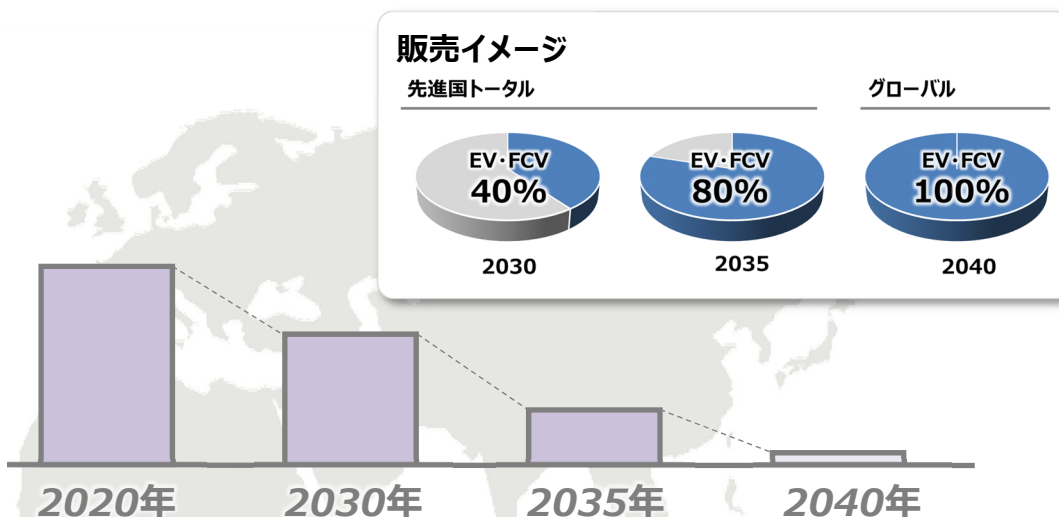
既存
※パノラマサンルーフ+サンシェード

追加
※固定式ガラス+ロールサンシェード



各地域と電動化のニーズへの変化に注視し販路拡大と製品開発を推進

事業の縮小戦略



《現場力ものづくり改革》

1. 競争力強化

- ・生産量に応じたものづくり手法の確立

2. 競合に勝てる盤石な生産体質

- ・グローバルで最適な生産アロケーション
- ・各地域毎の生産体制強化

将来予測

電気自動車

移行期

拡大期

成熟期

燃料タンク

システムサプライヤー化

電動化に伴う新たな施策

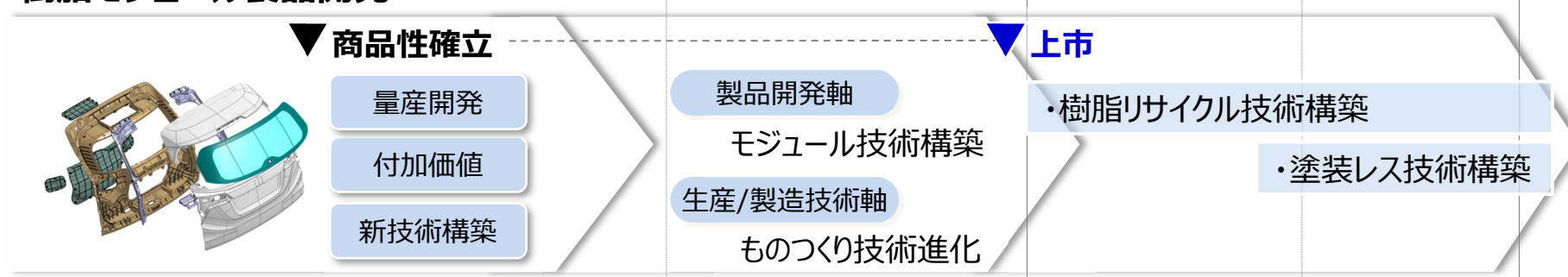
高効率生産の追求（構成部品の共用化・長用化、原価改善施策）

高効率生産を追求し、最後まで燃料タンク事業を進める

将来予測



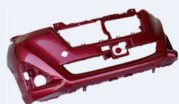
樹脂モジュール製品開発



製品別拡大戦略

■ 既存体質アップ

- ・既存ベースでの体質強化 (足元固め)



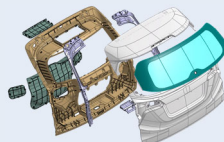
販路拡大



船外機部品

■ モジュール化への仕込み

- ・樹脂生産拡大、設備導入での基盤造り



少量ローカル機種

■ 拠点拡大

- ・グローバル展開
 - モジュール製品への事業変換
 - 資源循環サイクル製造プロセス確立
 - パートナー連携・提携

モジュール製品拡大

モジュール製品でモビリティのキーカンパニーを目指す

品質・物流における取り組みで優秀賞を受賞

グローバル3拠点でHonda 2021年度サプライヤーアワードを受賞



2020年度・2021年度と2年連続受賞



拠点10周年イベントにおいて受賞発表

福祉車両でホンダアクセスさまから 優良感謝賞を受賞



引き続き、お客さまのニーズを満たす高品質な製品づくりに努める

Yachiyo Custom Parts

CFRP ROOF (2019年7月に発売を開始)



ご好評につき増産開始 (2022年4月予約分より)

【特長】

- 純正比 22%軽量化
- 高い剛性
- 独自のロック機構
- カーボンの美しさを引き出した塗装

寄せられた喜びの声

『内装へのこだわりもすごい！』

『オリジナルロック機構が
素晴らしい！』

『これからも楽しい
S660ライフに力添えを！』

CFRP REAR HOOD



2022年10月より発売開始予定

【特長】

- 純正比 55%軽量化
- フルドライカーボン製
- 高級感のある外観

要望の声

『CFRPエンジンフードを
出してください！』

『エクステリアのカーボンパーツを
作ってください。八千代工業さんの
パーツなら絶対買います！』

お客さまに喜びと満足をお届ける

運転補助装置

Honda
FRANZ
SYSTEM



培った少量生産技術のノウハウを生かし
お客さまに満足いただける製品を生産



2012年8月
当社製1号車出荷



2012年6月
福祉車両へ業容を拡大

2016年
3代目FIT 1号車出荷



2018年
柏原工場へ移管

2022年4月
4代目FIT 1号車出荷



世界初公開となった「第46回 東京モーターショー2019」では、福祉車両45年の歴史で初めて本機との同時発表が実現。

今後もお客さまの「移動の喜び」と「操る楽しさ」を支え続ける

陸上競技用車いす

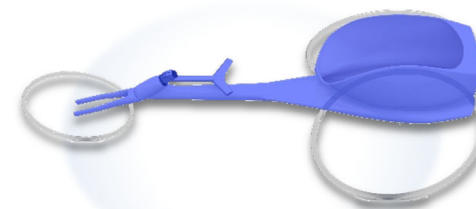


グッドデザイン賞を受賞

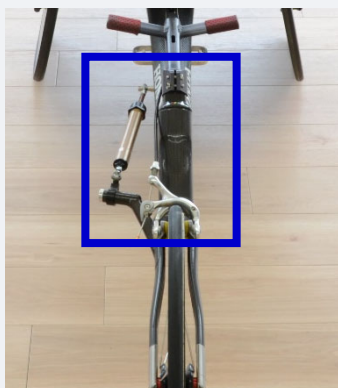
新規開発

ウイングフレーム

- ・厳しい競技を勝ち抜く
優れた特性
- ・アスリートの闘志をかき立てる
斬新なデザイン

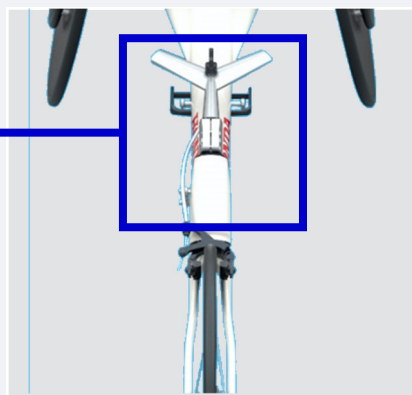


【スタンダード】



フレームの外に設置された
ダンパーにより空気抵抗が
発生

【フラッグシップ】



ダンパーをはじめステアリング周
辺パーツをフレーム内に格納し、
空気抵抗を軽減

新規開発

ビルトイン・ダンパー・ステアリング

フロントフォーク周りのすっきりとした流麗な
デザインの実現に貢献し、空気抵抗を軽
減させました。

翔 フラッグシップの戦績

- ・TOKYO 2020 パラリンピック
 - 金 2
 - 銀 3
 - 銅 3
- 8 個メダル獲得に貢献

全ての人々へ「感動」と「共感」を与えることに技術で貢献する

環境基本方針

責任ある社会の一員として、持続可能な社会の実現に向け、全ての企業活動を通じて、積極的に地球環境の維持向上に努めます。

企業価値向上に向けた取り組み

- | | | |
|------------------------------|------------------------------|------------------------|
| 1.気候変動への対応
(CO2排出量削減、省エネ) | 2.水使用量・廃棄物量削減
(水リスク、資源問題) | 3.法令違反ゼロ、地域からの
苦情ゼロ |
|------------------------------|------------------------------|------------------------|

太陽光発電の導入



ヤチヨ インディア
マニュファクチャリング プライベート リミテッド



2021年稼働



八千代工業（武漢）有限公司

2022年稼働予定



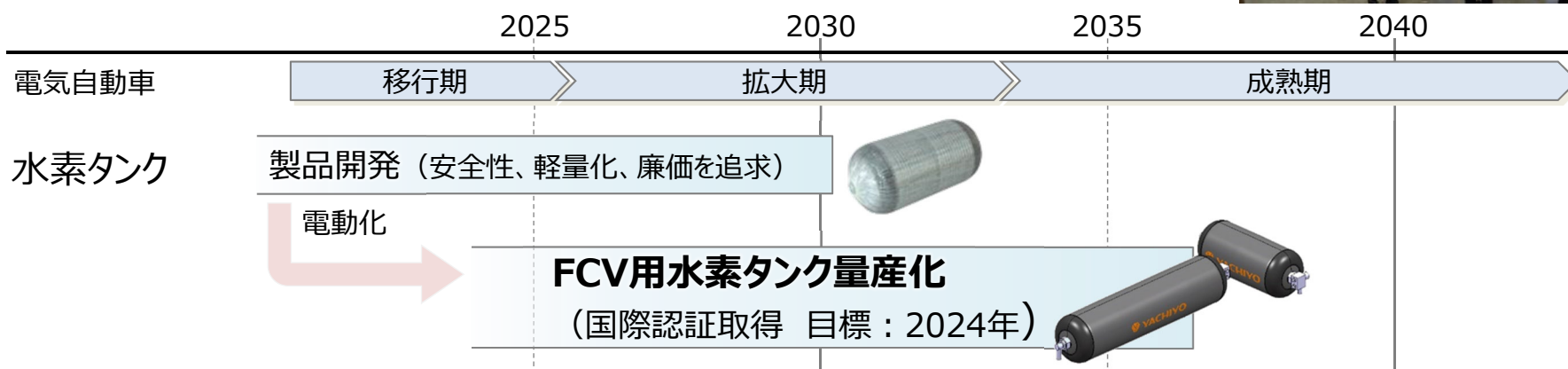
八千代工業（中山）有限公司

2023年稼働予定



2050年カーボンニュートラルの達成に向けた取り組みを開始

FC EXPO 2022に出展



FCV用水素タンクの量産化に向けて国際認証取得予定

目指す姿

企業としての活動を通じて、社会からその存在を認められ、期待される企業



 サイアム ヤチヨ カンパニー リミテッド
プラチンブリ県内の学校25か所に奨学金の支援



 エー ワイ マニュファクチュアリング リミテッド
飢餓のない社会を目指す団体でボランティア活動



 八千代工業（武漢）有限公司
米や食用油を100世帯へ寄贈



 八千代工業
地域のフードバンク活動を実施

継続した社会貢献活動を実施し、地域から愛される企業を目指す

